

輪伐による薪炭材の採集、炭焼き、販売で、多様な生息空間を維持

56. 北摂・黒川の里山【兵庫県川西市】

範 囲	兵庫県川西市北部から猪名川町にかけての山間部	
所 在 地	兵庫県川西市黒川	
生 物 地 理 区 分	アカマツ林	
環 境 要 素	二次林()、水田、畑、社寺林、人工林、その他(竹林)	
自然条件	地 形	東西に狭く、南北に細長い地形になっている。気候は温暖で北部は山岳の起伏に富み、南部は平たんで、市の中心市街地はここに形成されている。
	植 生・生物等	<p>里山林の植生は川西北部では主にアカマツ林、コナラ・アベマキ林で構成されているが、川西市北部にはクヌギ林もあり、台場クヌギといわれている特徴あるクヌギがある。</p> <p>台場クヌギの樹液にはクワガタやカブトムシが、クヌギの葉には美しいチョウの幼虫が集まり、生物多様性を守る働きをしている。</p>
		 <p>撮影時期：2004年4月 提供：人と自然の博物館 現在も10年周期で皆伐されているクヌギ林。輪伐のため、様々な樹齢の林がモザイク状に分布</p>
社会条件	人口(市町村)	156,476人(農家率0.7%、副業的兼業農家が多い) 川西市のデータ(H22年)
	土 地 利 用	市総面積の3.2%が田畑、39.1%が山林である。 川西市のデータ(H22年) 対象地区の森林のうち、約9割は里山林である。
	歴 史・文 化	黒川地区では室町時代から炭作りが盛んで、現在も炭焼き農家1軒が伝統技術を守っており、台場くぬぎは炭焼きの伝統とともに代々受け継がれてきた大切な文化である。 また当地区の里山は、全国的に貴重な今でも利用されている里山であり、里山を利用する「文化性」、モザイク状の昔の里山景観が見られる「景観性」、平安時代まで遡れる「歴史性」など多くの特徴を持っていることから、日本一の里山と称されている。
法 指 定、行 政 による 評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	保安林
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	(財)森林文化協会「兵庫県南部(北摂地域)里地里山保全再生モデル事業」 朝日新聞社、(財)森林文化協会「にほんの里100選」に選出(H21)

北摂・黒川の里山				
取組主体	タイプ	NPO企業等：NPO・企業・学校等地域の外からの参加者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
		菊炭友の会 川西里山クラブ	森林ボランティア団体	
経緯	<p>兵庫県南部(北摂地域)は比較的都市に近く、また、ため池などが多く点在し、希少種が生息する地域として、またマツ枯れなどの管理が課題となっている地域として環境省の里地里山保全再生モデル事業における「モデル事業実施地域」のひとつとして選定された。</p> <p>『菊炭友の会』では、兵庫県が推進する「里山ふれあい森づくり事業」の一翼を担い、川西市黒川において黒川・桜の森第2期整備計画を推進中。</p> <p>『川西里山クラブ』は、豊かな川西の森の再生を通じて「市民と森との共生」を目指し、森林ボランティア講座受講生によって発足した。</p>			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	不明			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	該当なし		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーリズムの場としての利用	自然観察会	ひとはくセミナーによる里山観察会	
		環境教育・学習活動	ひとはくセミナーによる台場クヌギ調査	
		里地里山体験・環境保全	川西里山クラブ、菊炭友の会による里山管理活動	
		農林業体験活動		
		エコツアー		
		その他		
	野生動植物やその生息地の保全・管理	森林ボランティア団体や菊炭生産者等による森林保全(保育、伐採)。現在も輪伐による薪炭材の採集が行われているため、地域内に1～10年生の林がモザイク状に配置されることで、多様な生息生産空間が生まれ、生物多様性が維持されている。また、台場クヌギも継続して分布が可能となっている。エドヒガンの保全も開始された。		
	地域の良好な景観の保全・修復	該当なし		
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術	室町時代後期から重用されて歴史ある茶道用の良質の炭、菊炭用に、またシタケ生産用に現在も定期的にクヌギを伐採し、活用。	
		その他	台場クヌギ：「台場」と呼ばれる特殊な仕立て方。幹を地上部の1m～2mの高さで伐採し、伐採部分から再生する枝(萌芽枝)を定期的に伐採する。よって、土台となる主幹は伐採しないため、太くなり台仕立てになる。	
一庫炭生産者の指導による、NPO、市民団体活動地での炭がま建設、および炭焼き技術の継承。一庫炭生産者の後継者育成。 当地域は現在も生業として炭の生産が続いているほか、森林ボランティア団体も地域内で自分の窯を使って生産し、それが里山林の保全につながっている。また、茶道に使われる菊炭文化を伝承。				
連携・協働	<p>行政：黒川里山まつりの実施や活動のための資金の(委託等)のバックアップ体制</p> <p>専門家：人と自然の博物館による生物に関する専門知識の提供、里山管理技術指導</p> <p>市民、NPO：地域の里山における管理活動(菊炭友の会、川西里山クラブ)、環境学習への活用(ひとくら里山学校)</p> <p>企業：能勢電鉄による活動場所の提供</p> <p>住民：まちおこしのための里山活動の支援</p>			



提供：人と自然の博物館



撮影時期：2008年6月

台場クヌギと炭焼がまの跡。人の営みにより、台場クヌギが育まれていることを示している。

撮影時期：2007年7月

菊炭。およそ10年ごとに伐採され炭に加工される。

景観としての
利用・評価

不明

取組の特徴

伝統産業の継承により里山林の景観・生物等が維持、その重要性が周知され地域での取組拡大につながっている。

森林ボランティア団体や菊炭生産者等が現在も台場クヌギの輪伐により薪炭材を採集しているため、林がモザイク状に配置されることで多様な生息生育空間が生まれている。また、専門家が生物に関する知識を提供し里山管理技術を指導し、一庫炭生産者の指導により市民活動団体等が炭焼き技術を継承している。

平成18年度からは地元主体で「黒川里山まつり」が毎年開催され、平成21年には人と自然の博物館による自然・文化・歴史を題材とした「北摂の里山検定」が実施されるなど、黒川地区の里山保全の重要性も地域に確実に浸透しつつある。

【参照資料】

北摂里山博物館 HP (<http://www.hankita-sannou.jp/nourin/>)

読売新聞 HP (2008年11月1日記事)

川西市 HP (<http://www.city.kawanishi.hyogo.jp/>)

「菊炭友の会」HP (<http://kikuzumi.exblog.jp/>)

「川西里山クラブ」HP (<http://kawanisisatoyama.web.fc2.com/>)